

関西学院高等部

管理機関：学校法人関西学院





- 構想の概要について
- アドバンストプレースメント について
単位履修・高大連携科目
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響下
での取り組みについて

「AI活用 for SDGs」
 「地球と人類に貢献する
 平和構築のための学び」
 ~ Society 5.0に向けた
 WWLCリーディング・プロジェクト ~



関西学院・関西学院大学

A Lネットワーク・プログラム

「AI活用 for SDGs」 ~ Society 5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト~
 (関西学院大学 スーパーグローバル大学)

- 1) WWL・AI活用人材育成プログラム
- 2) SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEAM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等)
- 3) アドバンスドプレースメント(単位履修・高大連携科目)
- 4) Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ
- 5) 高校生公開討論会
- 6) 関西学院世界市民明石塾
- 7) 探究甲子園(仮称)
- 8) 高校生国際交流のつどい
- 9) テーマに基づく国際会議

(管理機関 関西学院)

継続を担保する人的・財政的支援

(管理機関 学校法人 関西学院) 継続を担保する人的・財政的支援
 (関西学院大学)
 ハンズオンラーニングを軸とした、平和・SDGsを志向する課題探究型カリキュラムの開発



感動のそばに、いつも。



GLOBAL LINKを通じた連携

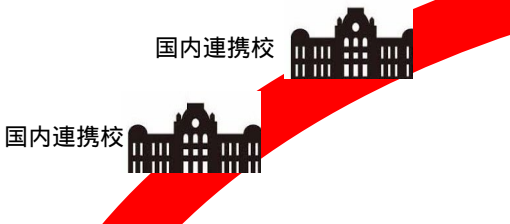
インドネシア
 ハラパン高校
 連携校



オーストラリア
 カンボジア
 連携校

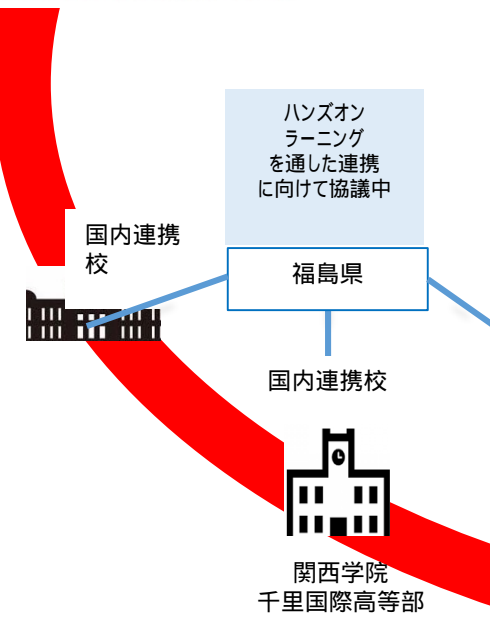


eポートフォリオを活用した
 主体性評価を通じた海外
 連携校との連携



オンラインにおける「AI活用入門講座
 開講」を通じた連携

RECRUIT
 リクルートマーケティングパートナーズ



拠点校：関西学院高等部

研究開発・実践テーマ：「AI活用 for SDGs」
 「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」

- 1) 全学年において文理科目をバランス良く配置し、授業・課外活動双方において、平和やSDGsをキーワードとした、教科横断型で体系的なカリキュラムを開発する。
- 2) 高校1年次は、SGHから継続するGLP(グローバル・リーダープログラム)を継続。適性と関心のある生徒を対象とし、知識の修得・活用・探究のバランスを考慮しながら、AI活用・国際協働・ハンズオンラーニングの基礎を学ぶ。
- 3) 高校2年次には、1年次のGLPメンバーを核として、「AI活用演習」「グローバルスタディ」「ハンズオンラーニング」等を必修選択科目として開講し、対象となる生徒を増やす。大学教員・外国人講師もそれら授業を担当する。
- 4) 高校3年次には、選択科目として高校2年次の発展形を用意し、更に対象生徒を増やす。国内・海外でのフィールドスタディ等を踏まえ、連携校とそれぞれの知見を活かし、平和構築に向けた国際シンポジウムを開催する。
- 5) ICT環境を活かし、全ての生徒が授業・課外活動双方において効果的にeポートフォリオを活用する。質の高いポートフォリオによる振り返りを重ね、次の活動につなげるよう導くことで、生徒の主体性を育てていく。
- 6) 海外の高等学校とのフィールドスタディを含めた英語での探究活動や、インターナショナルスクール等との国内外での研修等をカリキュラムの中に体系的に位置づけていく中で、海外大学進学等を含めた多様な進路を視野に入れる。
- 7) 関西学院大学による、選択科目としての様々な講座提供により、文系理系を問わずより高度な内容を学びたい高校生が学習できる環境整備を行う。なお、その際に一部の科目については、関西学院大学による単位認定も可能とする。

アドバンス プレースメント について

単位履修・高大連携科目





■ アドバンストプレースメント (単位履修・高大連携科目) について

高大連携科目の目的

特定分野に強い興味・関心を持ち、**高等教育を受ける**

能力と意欲を有する高校の生徒に、本学の授業を

履修する機会を提供し、**高校教育の活性化を図ること**

を目的とする。



■ アドバンストプレースメント (単位履修・高大連携科目) について

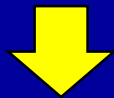
高大連携科目

各学部が高校生に履修を許可した科目をいう。

高大連携科目を受講する高校生を「高大連携生」と呼び、

本学における身分上の取り扱いは、聴講生と同様とする。

ただし、





■ アドバンストプレースメント (単位履修・高大連携科目) について

高大連携科目

関西学院高等部、関西学院千里国際高等部、啓明学院高等学校の3校については、学校長から大学学長に推薦され、大学学長が特に認めた生徒について、特定の科目において身分上の取り扱いを科目等履修生とする。

当該生徒が大学に入学した際には、本人の申し出により、科目等履修により修得した単位を大学の卒業必要単位に算入し、当該科目の成績評価は「認定」とする。



■ アドバンストプレースメント (単位履修・高大連携科目) について

高大連携科目

2020年度高大連携科目

神学部	2	総合政策学部	8
文学部	15	人間福祉学部	9
社会学部	10	教育学部	2
法学部	7	国際学部	2
経済学部	11	共通教育センター	1
商学部	24	ハンズオン・ラーニングセンター	1
理工学部	2		



■ アドバンストプレースメント (単位履修・高大連携科目) について

高大連携科目 (例)

神学部	日本宗教史
文学部	心理学入門
社会学部	現代民俗学
法学部	ビジネスと法
経済学部	現代経済入門
商学部	簿記基礎
理工学部	情報科学概論
総合政策学部	総合政策トピックスA
人間福祉学部	社会福祉の歴史
教育学部	人と環境
国際学部	国際地域理解入門
共通教育センター	グローバル世界に発信する「日本文化の魅力」 の教育意義と教育体験
ハンズオン・ラーニングセンター	P B L 特別演習 [福島で学ぶ復興と原発問題]

■ 言語教育研究センターによる、 英語インテンシブプログラムについて

言語教育研究センター：

関西学院大学にて、全学的に英語コミュニケーション能力の向上を目指すための拠点

1．毎年約15講座程度が高校生向けに提供される。

特徴1：オールイングリッシュの少人数授業

特徴2：レベル別の集中講義

特徴3：目的別の英語スキルアップ&コンテンツラーニング

2．高大連携科目と枠組みや制度的には同様だが、相応の英語力が必要となるため、窓口は英語科が担当。



拠点校 関西学院高等部における 関西学院大学との授業連携について

1. 高等部で、大学の講師陣による授業を受講

高3生 火曜～金曜 5・6時間目の選択科目に
高等部の選択科目として、関西学院大学各学部の講師による授
業を実施。高等部の単位として認定。

➡ より高度な内容を学べる環境の整備

2. 大学で、大学生と一緒に授業を受講

高3生 火曜～金曜 5・6時間目の選択科目として
アドバンスプレースメントと英語インテンシブプログラムの仕組みを利
用し、大学の授業を受講可能に。

具体的な運用

2. 大学で、大学生と一緒に授業を受講

2月頃：プログラム説明会

3月頃：大学からの受講可能科目一覧とシラバスをもとに、条件に合致するものを生徒が選択・申請

- ・受講科目決定
- ・シラバス提供
- ・授業実施・成績提出

関西学院大学
各学部



関西学院高等部
教務部



- ・説明会実施
- ・各種生徒対応
- ・成績処理

- ・制度整備
- ・各種取りまとめ・窓口

関西学院大学
教務機構



関西学院高等部
事務室

- ・各種取りまとめ・窓口

英語インテンシブプログラムは英語科が窓口・生徒対応



具体的な運用

教務的には様々な難しさ

- 1 . 春学期しか受講できない
生徒は2学期から高等部の選択科目に戻る。
- 2 . 受講したら、大学のルールに
高・大のスケジュールの重なり
遅刻・欠席や定期試験等様々なルールの違い

それでも……

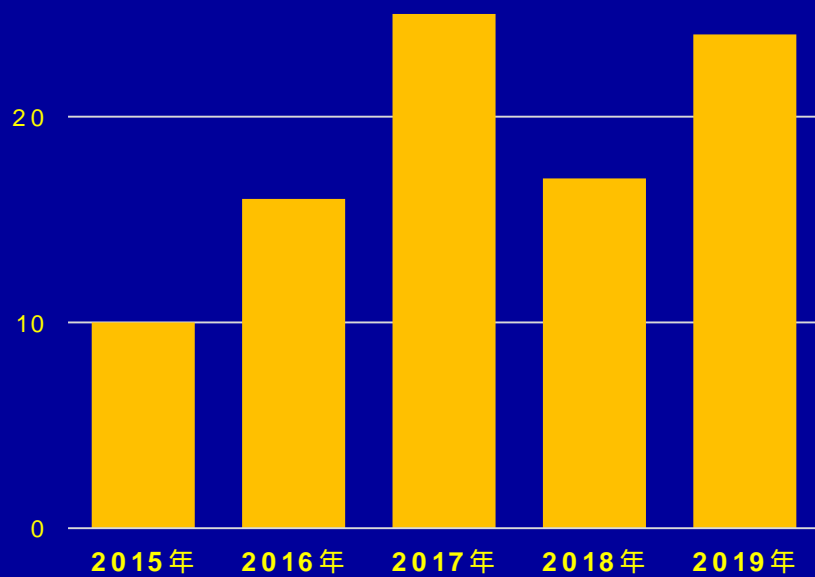
生徒の様子



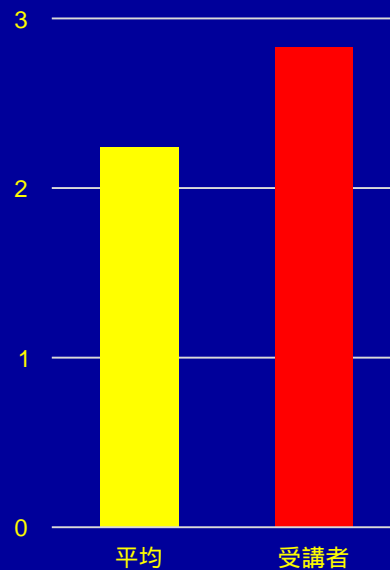
受講者数は毎年20名前後で推移

受講者の追跡調査では、より積極的に大学生活を送っている様子

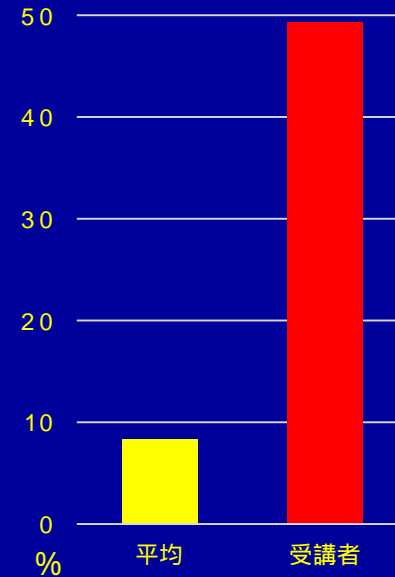
受講者数



GPA



留学プログラム参加率





より積極的な受講を可能とするために

夏季短期集中型講座の開講促進とWWL事業との連動

総合政策学部：
「総合政策トピックスA」

夏季休暇中に4泊5日の合宿形式で実施。

関西学院高等部・
啓明学院高等部・
関西学院千里国際高等部の生徒が大学生と一緒に課題研究を行う。
(今年度は中止)

WWL事業に伴い新設
ハンズオン・ラーニングセンター：
P B L 特別演習 [福島で学ぶ復興と原発問題]

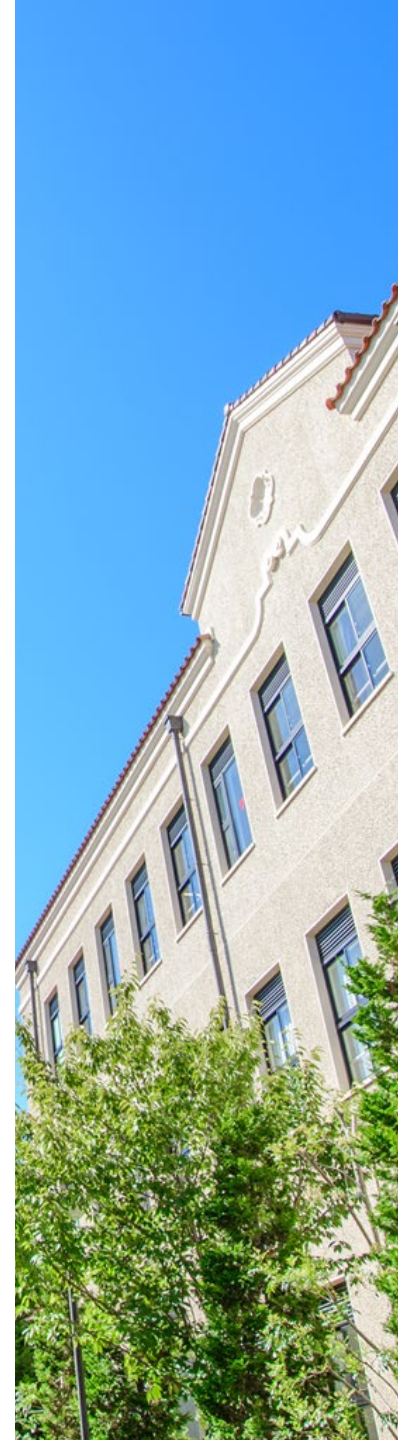
関西学院大学の時任准教授 (WWLカリキュラムアドバイザー) と、『news zero』キャスターであった村尾信尚教授が担当

高等部にてWWL事業を受けて今年度より新設した、教科横断型PBL科目：「グローバル探究B：ハンズオンラーニング」と連動。

上の授業では、「平和と人権」をテーマとして、広島や福島といったテーマを学んでいく。その延長線上にこのプログラムがある。

夏休み3泊4日での実施 (今年度は中止)。

新型コロナウイルス感染症拡大の 影響下での拠点校の取り組みについて



4月からの拠点校の取組について

4月より学校全体としてオンラインでの活動を続けてきた……………

全学年1人1台 BYODでiPad所持

ロイロノート^{*1}・Classi^{*2}を基盤とした生徒・保護者とのやりとり

Zoomの有償契約を急遽行い、オンライン授業を実施

WWL事業を受けて新設した3つの教科横断型PBL科目

「グローバル探究A：AI活用」

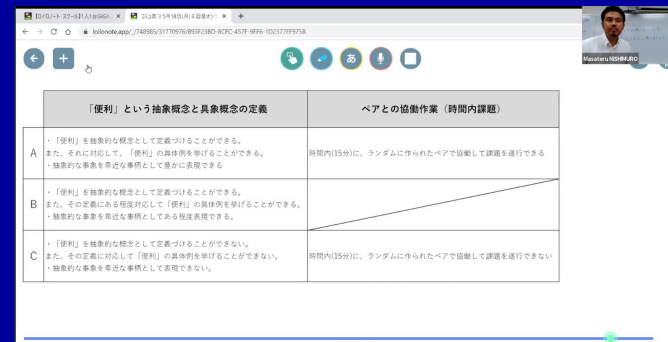
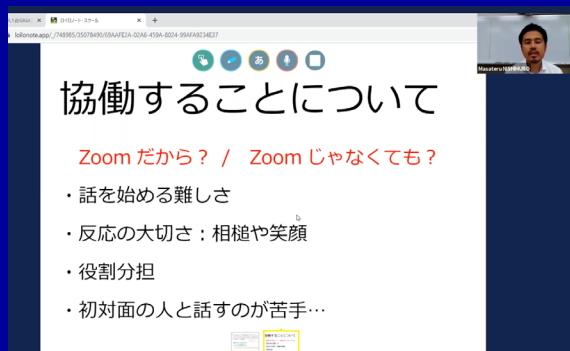
「グローバル探究B：ハンズオンラーニング」

「グローバル探究C：グローバルスタディー」

でも、オンラインでの探究活動を試みてきた。

*1 株式会社LoiLoが提供する授業支援クラウド

*2 Classi株式会社が提供する教育用プラットフォーム



Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いた、グループワーク実施
ロイロノートでのルーブリックの提示とそれに基づいた、プレゼンや相互評価の実施
(ロイロノートにて提出・共有・評価)

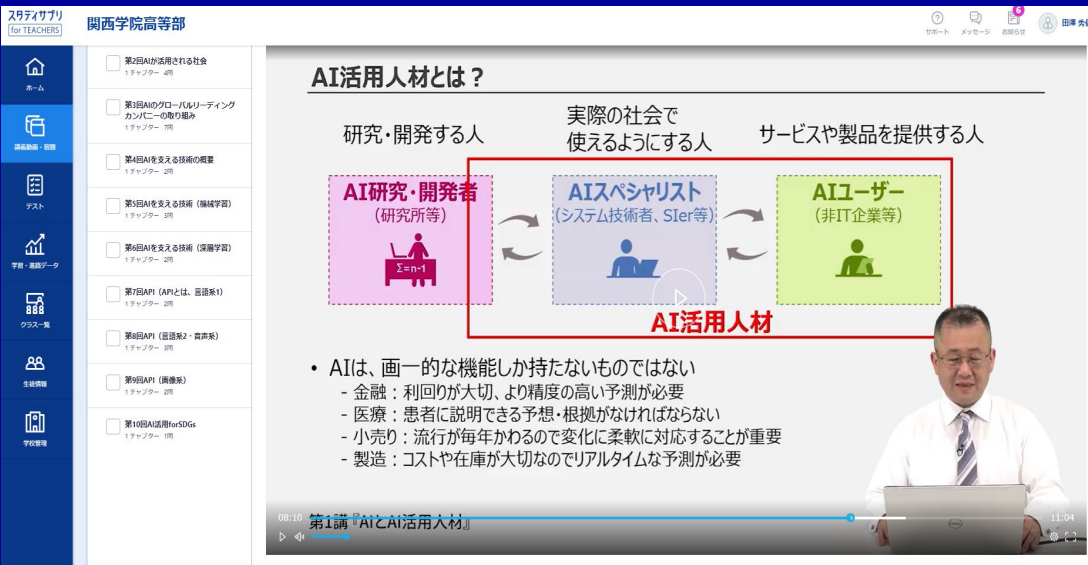
4月からの拠点校の取組について



スクリーンショット: 関西学院高等部 学習管理システム (スタディサプリ for TEACHERS) の動画再生画面。タイトルは「AI活用入門講座」で、第1講「AIとAI活用人材」の再生中画面が示されています。

「グローバル探究A：AI活用」では、WWL事業にて、リクルートマーケティングパートナーズ社と連携して制作した、スタディサプリ上の「AI活用入門講座」を用いた授業を実施

「コロナ下におけるAIの利用」をテーマに授業を展開



スクリーンショット: 関西学院高等部 学習管理システム (スタディサプリ for TEACHERS) の動画再生画面。内容は「AI活用人材とは？」という図解と、AIの具体的な応用に関するリストが示されています。

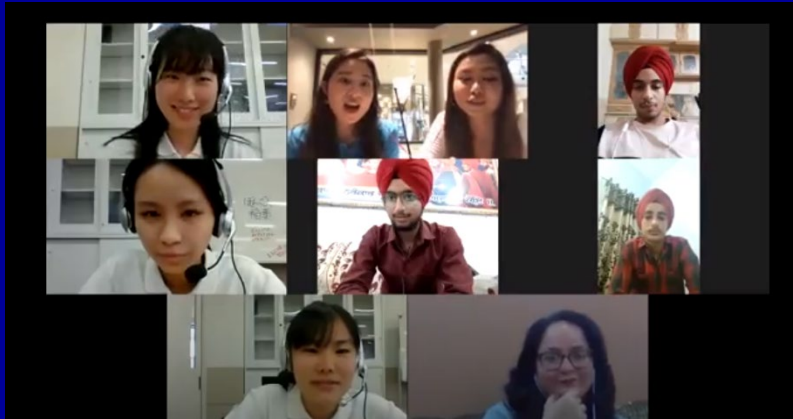
AI活用人材とは？

研究・開発する人 (AI研究・開発者 (研究所等)) ↔ 実際の社会で使えるようにする人 (AIスペシャリスト (システム技術者、SIer等)) ↔ サービスや製品を提供する人 (AIユーザー (非IT企業等))

この三者を囲む赤い枠が「AI活用人材」を示しています。

- AIは、画一的な機能しか持たないものではない
 - 金融：利回りが大切、より精度の高い予測が必要
 - 医療：患者に説明できる予想・根拠がなければならない
 - 小売り：流行が毎年かわるので変化に柔軟に対応することが重要
 - 製造：コストや在庫が大切なのでリアルタイムな予測が必要

4月からの拠点校の取組について



「グローバル探究C：グローバルスタディ」では、海外（フィリピン・インド）の学校とZoomでつないでのプロジェクトを実施



2020年7月・8月 毎週日曜日 10時～開催！

1回
3,300円(税別)

自宅から海外研修に参加しているような体験ができます。
留学や国際ボランティアに行けなくなってしまった方、大学入試の自己推薦
料の内容を検討している方、この機会にぜひ一緒に旅に出かけませんか？

～ツアーの行程(約2時間半)～

- グループで意見交換
あなたにとって、「豊かさ」「幸せ」とは 教育機関の集まる学園都市
- フィリピンの発展都市「イロイロ市」観光ツアー
フィリピンのシリコンバレーと呼ばれる発展都市、イロイロ市を見学
- ホストファミリーの暮らすごみ山へ！
働く環境や通っている小学校を見学・インタビュー
- 現地スタッフ・ホストファミリーと交流
フィリピンの現地で教育支援などをおこなうNGO団体LOOBのスタッフ・現地フィリピン人と交流！
(英語サポートがきます)
- グループで意見交換
ツアーを終えて改めて「豊かさ」「幸せ」とは何かを考える

ツアーで得られる体験

- 意見を交換することで、多種多様な価値観を知る
- 見て、聞いて、感じたことを言葉にする
- 身の回りの「あたりまえ」を改めて問い直し、自ら答えを見出す
- 知識の受容にとどまらず、発信・行動する

授業と連動させ、WWL事業の海外交流アドバイザーである五十嵐氏のコーディネートにより、単なる「オンライン英会話体験」ではなく、フィリピンのごみ山を舞台に、SDGsについて考える「オンラインスタディーツアー」を企画

8月に本格的に実施予定

WWL事業運営指導委員も参加予定

4月からの拠点校の取組について

しかしながら……

オンラインでの限界

分散登校となって以降は、「×グループワーク」「×フィールドワーク」

このような悩みをまず教員間で共有するため、「オンライン連携校会議」を開催

「WWL 連携校 教員交流の会：これからの探究教育のあり方」

目的：WWLやSDGs教育の一環として今まで取り組んできた、あるいはこれから取り組もうとしている探究授業の実践やアイデアを教員間で共有することで、今後の探究活動における生徒の学びを深めるためのヒントを得る

日時：8月7日（金） 14：00～16：00

場所：Zoomを用いたオンライン会議

構成：1部：講演：「コロナ下における探究授業のありかた、展望について」
大阪大学 全学教育推進機構 村上正行教授（WWL事業 検証委員）

2部：グループセッション

1つのグループ：各校10分の発表・5分の質疑応答 × 4校

3部：各グループの共有

発表テーマ：・この1学期に各校で取り組んだ探究授業やSDGs教育の実践報告。

- ・今後2学期に向けて取り組もうと思っていること
- ・他校へのアドバイス（上手くいったこと、困ったこと）
- ・他校への質問 など

ご清聴ありがとうございました！

